

「子育てするなら東村山」を目指して

— こうして「ころころの森」は生まれた —



東村山市長

渡部 尚

はじめに

「地域と子ども学」の創刊にあたり、本市が学校法人白梅学園に運営を委託している東村山市子育て総合支援センター「ころころの森」設置にいたる経緯を寄稿して欲しい、とご依頼をいただきました。

拙文掲載の機会をお与えいただいたことに感謝するとともに、本市がどのような考えで子育て支援に関し新たな一歩を踏み出したのか、多くの方に知っていた

だきたいと思い、筆を執った次第です。

「ころころの森」とは、昨年10月に東村山市野口町に開設された、主に家庭で育児されている乳幼児とその保護者が気軽に訪れ、ゆったりした中で交流、相談などを行える子育て支援施設です。大学と市民NPO団体、行政が連携し、運営に当たるといふユニークな形態を取っています。

なぜ、こういう施設が生まれたのか。以下その経緯を記していきたいと思います。

「緑あふれ、くらし輝く都市」東村山

さて、私たちの東村山市は東京都の北西部に位置する住宅都市です。約4キロ四方の市域に西武線などの駅が9つあり、都心まで1時間という利便性の高さから、昭和30年代から人口が急増し、昨年15万人を超え、多摩26市中10番目の人口規模を誇るまでに至っています。

『とこりのトトロ』の舞台とされる「八国山」をはじめ豊かな自然と都内唯一の国宝建造物の「千体地藏堂」など歴史・文化遺産に恵まれ、市民は人情に厚く、大変住みよいまち、子育てしやすいまちと自負しています。

現在、本市では平成7年に策定した第3次総合計画の総仕上げの時期を迎え、将来都市像「緑あふれ、くらし輝く都市」を目指し、積極的に都市基盤の整備、小中学校などの公共施設の耐震化・更新、ニーズが増大する高齢福祉・児童福祉の充実、地球環境問題への対応、行財政改革などに取り組んでいます。

私のマニフェスト

平成19年4月に市長選挙が行なわれ、それまで市議だった私は初めて市長選挙に挑戦することになりました

た。その時市民の皆さんにお示ししたマニフェストは、本市のシンボル「八国山」にちなんで「八国山からの新たな風宣言」としました。

私は八国山に象徴される東村山のよさを生かし、更に発展させて、豊かな自然と高い都市機能が調和する中で、市民誰もが安心し、生き生きと元気にくらす街を、市民の皆さんと共に築いていきたい、そんな願いを込めて「八国山からの新たな風宣言」と名付けたのです。

その中で、私は「八国の宝」として「命・子ども・緑をしっかり守り・育てる」ことを、市民の皆さんにお約束しています。

お蔭様で、多くの市民の皆さんのご支持により当選させていただきました。早いもので2年が過ぎました。現在、マニフェストの実現、とりわけ「子育てするなら東村山」を目指して、厳しい財政状況の中、日々悪戦苦闘しながら、地域ぐるみで子育てを支援するさまざまな取り組みを進めています。平成20年10月にオープンした、東村山市子育て総合支援センター「こころの森」も、その取り組みのひとつです。

「こころの森」の基本コンセプト

「こころの森」は新たに建設されたものではなく、

平成16年に閉鎖された東京都の多摩東村山保健所の2階フロアーを改修したものです。実は「ころころの森」の構想は、閉鎖された旧保健所を市としてどう活用するのか、検討する過程の中で生まれてきたのです。

財政難にあえぐ本市にとって、新たな施設の設置は重大な決断です。幸い、都から提示された条件は「保健福祉」について活用するのであれば、譲渡費用を減額するというものでした。そのため、「保健福祉」を前提に、1階部分については本市の社会福祉協議会の事務所とし、2階については近年ニーズが高まっている子育て支援の施設とする方向で検討することが、細測前市長時代に決定されたところです。

これまで本市は市役所に隣接する「いきいきプラザ」内に子ども家庭支援センターを設置し、妊娠・出産から18歳までを対象に、子育て支援を進めてきました。しかし子ども家庭支援センターの地域活動室は多くの親子が気軽に利用する状況には至っておらず、親子が気軽に訪れ、ゆったりとした気持ちでくつろぎながら交流できる場の創出が課題となっております。

また、社会や地域などから孤立しがちな家庭で子育てを行なっている保護者に対し、孤立させない施策が求められておりました。

本市の0～2歳児の総人口は3,830人（21年4月現在）に対し、認可・認証・認可外など何らかの保育

サービスを受けているお子さんは844人です。あの約3,000人の乳幼児は家庭で保育されており、これまで行政からの支援の手が、あまり差し伸べられていなかった家庭内保育が圧倒的に多いのが実状です。

こうした課題や実情を踏まえ、東村山市次世代育成支援行動計画「東村山子育てレインボープラン」（平成17年策定）の理念である、子育て・親育ち・地域育ちの実現を目指していく拠点として、主に家庭で育児に専念をしている親御さんとお子さんへの支援をしていくことを基本コンセプトとして、2階部分の活用を図ることとし、さらに専門家も交えて検討を加えることとしたのです。

専門家と市民の懇談会での検討

専門家については、保育の教育機関であり、当市の保健福祉協議会にも委員として参加していただいている白梅学園にお願いし、18年度の末に報告書をいただいたところです。

19年度に入り、この報告書をめぐっては、市議会ならびに本市の児童育成計画推進部会において「保育園の待機児童解消が先ではないか」などさまざまな議論があったところです。市長に就任したばかりの私は、新たな施設の趣旨をご理解いただくのにだいぶ苦労い

たしましたが、新たな支援策の必要性については概ねご理解をいただけたものと思います。

その後、市議会でのご意見なども踏まえ、市民参加により更に議論を深め検討を進めるため、子育てグループや保育所保護者連合会、NPO、白梅学園などによる「2階フロア」活用に関する懇談会」を立ち上げ、具体的な運営体制や事業内容等についてご検討いただき、19年度末に報告書をいただきました。

開設までの取り組み

20年度予算を編成する過程では、率直に言って、極めて厳しい財政状況の中で新たな施設を設置するか否か、ずいぶん悩みましたが、これまでの経過や趣旨を踏まえ予算に盛り込む決断をし、懇談会の検討結果を受け、平成20年4月から改修工事を開始いたしました。

事業運営につきましては、今までの経過などを踏まえて白梅学園に委託し、大学の持っている専門的知識や技能等を發揮していただき、行政・地域・NPO等と連携しながら事業を運営していただくことといたしました。

また、施設の名称を市民公募し、「「ころころの森」と決定をいたしましたところです。

開設から半年が過ぎて

おかげさまで、昨年10月1日に開設し、非常に多くの方にご利用いただいております。ちなみに平成21年3月末現在の登録者数は大人2,846人、子ども2,313人、利用者数はのべ大人9,912人、子ども10,887人です。

開設して半年しかたっておりませんので、事業内容としては、まだまだ不十分なところもございますが、今後は親子が気軽に訪れ、くつろぎながら交流する場を提供することに加え、地域で子育て支援をする様々な人材を養成し、その活動を支援するなど地域をつなぐ事業を行ってまいりたいと考えております。

さて、21年度を迎え不況の影響もあり、保育園の待機児童が前年度を上回り、緊急に対策を講じる必要に迫られています。

こうした状況を踏まえつつ、「ころころの森」の事業が、さらに有効な子育て支援施策を打ち出せるよう、白梅学園ともさらに連携を密にしながら、「子育てするなら東村山」の実現に向けて努力していきたいと思えます。今後とも大学関係者はじめ皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。